

金子幸彦 （おろひ） ロシア文學者。明治四十五年一月五日東京生れ、平成六年七月二十一日歿（一九二一年）。筆名金子廉、金子廉一。昭和五年東京外國語學校露語部卒。渡信省囑託を経て一橋大學助教。

譯書の、ドブロリユーボフ著「オオブロモフ主義とは何か・今付といふのはいつ来るか」（金子廉・金子廉一名、津田巽共譯、昭和十八年六月二十日弘文堂書房「世界文庫」）、A・I・ゲルツェン著「過去と思想・一」（昭和二十一年八月二十日日本評論社「世界古典文庫」）、ピーサレフ著「生活のための闘い」ドストエフスキーの「罪と罰」について」（昭和二十二年一月十五日東京王書房。再刊「生活のための闘い」）、二十七年十月十五日岩波書店「岩波文庫」）、ゲルツェン著「ロシヤの革命思想の發達について」（昭和二十五年十一月五日、改訂・四十九年十一月十八日岩波書店「岩波文庫」）、レールモンツフ作「カフカスのとりこ」（昭和二十六年五月二十日小峰書店「少年少女のための世界文學選」）、ドブロリユーボフ著「オオブロモフ主義とは何か」（昭和二十七年一月十日岩波書店「岩波文庫」）、「コプーシキ」詩集」（昭和二十八年十一月五日、改訂・四十二年九月十六日岩波書店「岩波文庫」）、トルストイ作「コイワンのばか」（昭和二十年五月二十日岩波書店「岩波少年文庫」）、N・オストロフスキー作「鋼鉄は心の鐵えられたか」全二冊（上巻・昭和二十五年十一月二十日、下巻・十一月五日岩波書店「岩波文庫」）、パーシキン作「博士ルスタンとリユドシーク嬢」（昭和二十二年一月十日岩波書店「岩波少年文庫」）、ツルゲーネフ作「父と子」（昭和二十四年九月二十日岩波書店「岩波文庫」）、ドブロリユーボフ著「オオブロモフ主義とは

何か？他一篇』(昭和五十年四月十六日岩波書店「岩波文庫」)、子  
 エルヌイシエーフスキイ作『何きかゆすゞきか』全二冊(上・昭和五十  
 二年一月十六日、下・五十五年六月十六日岩波書店「岩波文庫」)等。  
 著書『ポーシキン』(昭和二十五年十二月二十五日日本評論社)、『ロ  
 シヤ文学案内』(昭和二十六年十月二十日岩波書店「岩波文庫別冊」)、  
 『ヨーロッパ社会と文学』(合著・一橋大学一橋学会編、昭和二十七  
 年二月十日春秋社)、『ロシア山鏡論』(昭和五十五年十月二十八日岩  
 波書店)等。

